疑似科学に対する信念の検討

多文化コミュニケーション学科　国際地域文化専攻
氏名　駒込小菜美

問題

私たちはコミュニケーションをとる際、話題の１つとして様々な診断を取り上げることがある。しかし、血液型診断を例に挙げると、血液型間に性格の違いは存在しないことが証明されている。科学的に正しいとはいえない情報を広めることは様々な人を巻き込む恐れがある。疑似科学である様々な診断は多くの人が信じてきており、また身近なものであるが故に、その影響は大きい可能性がある。そのため本研究では疑似科学に対する信念を検討した。工藤（2003）の研究では血液型診断は期待確証が関わっていることが示された。期待確証とは、自分に当てはまっている要素にだけ注目し、そうでない情報を無視してしまうことである。そこで本研究では血液型診断以外の診断にもこうした心理メカニズムが当てはまるのかを調査することとした。

方法

血液型診断・性格診断・相性診断・手相をいつまで信じていたのか調べた。具体的には以下の図１のように、小学生・中学生・高校生・現在の年代別に分け、“1：信じる”～“4：全く信じない”の中から回答するよう求めた。加えて、いつまで信じていたかを調べるため、信じていた時と信じなくなった時の境目に赤で線を引かせた。

次に血液型診断・性格診断・相性診断・手相を信じていた理由、および信じなくなった理由を、それぞれ自由記述で回答するよう求めた。

最後に、このような様々な診断は生活に影響を与えていると思うかについて、“思う”、“まあまあ思う”、“あまり思わない”、“全く思わない”から１つを選択してもらい、その理由を自由記述で回答するよう求めた。

結果

小学生が信じていた理由としては、全体的に社会的影響が大きかった。中学生は血液型診断・性格診断は期待確証、相性診断は自己満足、手相は社会的影響であった。高校生では血液型診断・性格診断は期待確証、手相は自己満足であった。

また、信じなくなった理由として、血液型は全体的に知識の獲得が多く、授業で生物などを習うため信じなくなったと考えられる。また、相性診断は実体験を理由に信じなくなったという結果になった。相性診断はほかの診断に比べて自分自身で経験できる部分があるため信じなくなったという人が多いと考えられる。

また、診断が気持ちや生活に影響しているかどうかについては、「思う」および「まあまあ思う」を合わせると、半数近くなっており、半数の人が診断が気持ちや生活に影響すると考えていることが明らかになった。

考察

今回の調査結果から、診断により信じていた理由、信じなくなった理由は様々であったが、信じていた理由としては期待確証が多かった。工藤（2003）が示した、血液型診断だけでなく様々な疑似科学の信念において、自分に当てはまる要素にだけ注目してしまい、他の情報を無視してしまうことが多いのだと実証することができた。また、信じなくなった理由としては、分析的思考・可変性への気付きが同率であり、１つの理由に偏っていたわけではなかった。本研究から、正しくない様々な診断を、期待確証やバーナム効果などの現象により信じていたことが検証できた。今後はこうした心理メカニズムが他の様々な疑似科学の信念にも当てはまるかを検討することが求められるだろう。本研究の結果をふまえ、信じるという行為の曖昧さを理解したうえで、すべてを信じずに疑いを持ちながら関わっていくべきだろう。

この結果を参考に、疑似科学を私達がなぜ信じるのかを議論していきたいと思います。なお、質問がある場合には、komakona26@gmail.com までメールを頂ければ、お答えいたします。今回は調査にご協力をいただき、本当にありがとうございました。

長野県短期大学　駒込小菜美

セクシャル・マイノリティに対する寛容性の検討

長野県短期大学　山口結衣

先日は、調査に参加していただき、どうもありがとうございました。研究結果がまとまりましたので、お礼とともに、報告させていただきます。

調査目的

現代社会において、同性婚やそれに類するパートナーシップを目にすることが多くなった。例えば、渋谷区、世田谷区において同性パートナーシップが認められた。これは、同性カップルの権利の保障で、住宅ローンや生命保険について、民間企業が認めた場合に限り、パートナーとしてサービスを受けられるという制度である。

これまでの研究によって、男性より女性の方が同性愛者に対して寛容であることが明らかにされている。そこで本研究では、同僚や身内、友人といった、関係の違いによって対応に差があるのかを検討した。すなわち、制度はセクシャル・マイノリティに対して寛容さを見せてきたが、実際、セクシャル・マイノリティの人が身近にいたらどう感じるのかを検討した。

方法

アンケート調査を行った。はじめに、セクシャル・マイノリティに対する知識、LGBT に対する知識、同性婚に関する態度についてたずねた。続いて、これらの回答が終了したら、セクシャル・マイノリティに対する態度、セクシャル・マイノリティのカップルへの態度についての質問紙を配布した。セクシャル・マイノリティに対する態度は、「職場・学校関係」、「身内」、「友達」が「自分はセクシャル・マイノリティだ」と打ち明けてきたらどう対応するかをそれぞれたずね、本音と実際の対応を書くよう求めた。

結果

表 1 は、セクシャル・マイノリティに関する知識をどの程度持っているかをクロス表にまとめたものである。知識の有無によって、同性婚への賛否や同性カップルへの好意、非好意をクロス集計表で作成したが、結果に大きな差が出なかったため、自由記述を分析した。

表 1　知識の有無

（単位：%）

知識	回答割合
どちらも知っている	40.3
どちらも知らない	23.9
セクシャル・マイノリティのみ知っている	14.9
LGBTのみ知っている	20.9
合計	100.0

同性婚への賛否は賛成派が圧倒的多数であり、「同性婚を禁止する理由がわからない」という意見もあった。職場・学校関係、身内、友達において「自分はセクシャル・マイノリティだ」と打ち明けられた場合、全体的に好意的な意見が多かったが、身内には他のものと比べて、否定的な意見が多かった。同性カップルへの対応としては、「人それぞれ」だとする回答がある一方で、「自分とは関係のないこと」とする回答があった。

考察

同性同士が結婚できるようなしくみを作るかどうかを質問したが、個人について言及した回答と社会について言及したもので賛成する数が異なっていた。例えば、「悩んでいる人がいるから」のように、個人について言及した回答の方が賛成数は多かった。これは共感性が影響を及ぼしていると考えられる。つまり、同性愛者の立場に立って物事を考えることにより、賛成数が増えたのだと考えられる。しかし、「異性愛者にデメリットはない」や「個人の自由」などの回答から、自分の身近な問題としてとらえていない可能性がある。

職場・学校関係、身内、友達の場面に分け、「自分はセクシャル・マイノリティだ」と打ち明けられた場合にどう対応するかを質問した。調査の結果、職場・学校関係の人よりも友達のほうが打ち明けられても距離を置くことはせず、前向きに受け取るようであった。他方で職場・学校関係の人のように、それほど親しくない人から打ち明けられたときには困惑を感じていた。また、身内は他の場合と比べ、「悪口を言う」というような否定的な回答が多かった。これは、潜在的にセクシャル・マイノリティに対する偏見があるということだと考えられる。身内は回答者自身と血のつながりがあるため、身内がセクシャル・マイノリティであることが回答者に不利益を生じさせると考えたためだと解釈される。

同性カップルを見かけたときにどういう対応をとるかという質問に対する回答として、「自分とは関係のないこと」だとする回答があり、これは同性愛者が自分とは異なる集団に属している人だという認識を持っていることを示唆している。他者を自分とは別のものであると強く考えてしまうことは他者に対して偏見を持っていた場合、その偏見を強めてしまう可能性がある。

現代の日本において、LGBT に該当する人は 7.6%おり、これは血液型が AB 型である人（およそ 10%）と同程度いるとみなすことができる。こうした比率を考慮すると、セクシャル・マイノリティの問題を自分とは無関係な問題として考えることはできなくなるだろう。よって、少数派を「少数派」としない、多様性の認められた社会をつくっていくために、他者を慮り、他者の立場に立って物事を考えることが重要である。

この結果を参考に、セクシャル・マイノリティに対して寛容性のある社会をつくるための議論をしたいと考えています。なお、質問がある場合には、3girlsnoyushi@gmail.com までメールをいただければ、お答えします。今回は調査にご協力をいただき、本当にありがとうございました。

長野県短期大学　山口結衣